

1 チェーンソーによる局所振動障害の症状はどれか。3つ選べ。

- a 低血圧
- b 溶血性貧血
- c Raynaud現象
- d 感覚障害
- e 肘関節の変形

2 手根管の外にあるのはどれか。

- a 長掌筋
- b 正中神経
- c 浅指屈筋
- d 深指屈筋
- e 長拇指屈筋

3 医原病の組合せで誤っているのはどれか。

- a サリドマイド——アザラシ肢症
- b キノホルム——スモン病
- c クロロキン——網膜症
- d フィブリノゲン製剤——骨髄抑制
- e 小柴胡湯——間質性肺炎

4 監察医制度について正しいのはどれか。

- a 日本の大部分で施行されている。
- b 解剖に遺族の承諾が必要である。
- c 監察医は知事が任命する。
- d 主に司法解剖が行われる。
- e 検案は主に警察医が行う。

5 薬物相互作用により間質性肺炎をきたす組合せはどれか。

- a テトラサイクリン——鉄 剤
- b カプトプリル——フロセミド
- c インターフェロン——小柴胡湯
- d トルブタミド——ワルファリン
- e プラバスタチン——フィブレート

6 糞便検査で検出された虫卵の写真を示す。感染寄生虫の中間宿主はどれか。

- a ウ シ
- b サ ケ
- c ヘ ビ
- d モクズガニ
- e ミヤイリガイ



7 世界保健機関<WHO>の任務として誤っているのはどれか。

- a 専門家派遣による技術協力
- b 国際間の伝染病対策
- c 疫学・統計サービスの確立・維持
- d 災害時の緊急対策
- e 男女の雇用機会平等

8 妊娠による母体変化として正しいのはどれか。

- a 残気量の増加
- b 基礎代謝の低下
- c 消化管運動亢進
- d 血液凝固能亢進
- e 循環血流量減少

9 家族性腺腫性ポリポージスについて正しいのはどれか。

- a 若年で発症する。
- b 常染色体劣性遺伝をする。
- c 大腸癌が発生することは少ない。
- d ポリープの数は100個以下のことが多い。
- e ミスマッチ修復系の遺伝子に異常がある。

10 ホルモンと分泌器官の組合せで誤っているのはどれか。

- a ACTH ————— 脳下垂体
- b アドレナリン ————— 副腎髄質
- c カルシトニン ————— 腎 臓
- d チロキシン ————— 甲状腺
- e プロゲステロン ————— 卵 巣

11 大脳白質に最も豊富に存在する神経膠細胞（グリア細胞）はどれか。

- a 小膠細胞
- b 上衣細胞
- c 星状膠細胞
- d シュワン細胞
- e 希突起膠細胞

12 精神保健について正しいのはどれか。

- a 精神保健指定医は学会により認定される。
- b 精神科デイケアには介護保険が適用される。
- c 医療保護入院には本人の同意が必要である。
- d 精神保健福祉センターは各市町村に設置される。
- e 精神障害者には精神作用物質による急性中毒者も含まれる。

13 尿閉の原因として、誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 腎結石
- b 尿管狭窄
- c 尿道狭窄
- d 神経因性膀胱
- e 前立腺肥大症

14 他覚的聴力検査はどれか。

- a 音叉検査
- b 遊戯聴力検査
- c 語音明瞭度検査
- d 聴性脳幹反応（ABR）
- e 両耳バランステスト（ABLB）

15 内臓悪性腫瘍のデルマドローームでないのはどれか。

- a 黒色表皮腫
- b Sweet病
- c Osler結節
- d Leser-Trélat徴候
- e 壊死性遊走性紅斑

16 正常妊娠の成立で正しいのはどれか。

- a 受精は卵管狭部で起こる。
- b 妊卵は桑実胚で着床する。
- c 妊卵は子宮筋層に着床する。
- d 着床は受精後約2週間で始まる。
- e 妊娠黄体は多量のプロゲステロンを分泌する。

17 思考の障害でないのはどれか。

- a 離人症
- b 関係妄想
- c 観念奔逸
- d 強迫観念
- e 連合弛緩

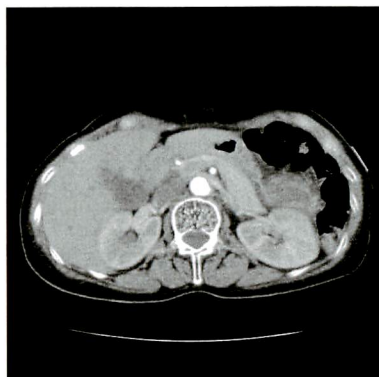
- 18 60歳の女性が造影CT検査（ダイナミックCT）を受けた。同じ部位のスライスを別図①②③④に示す。

撮影された時間順に左から並べたもので正しいのはどれか。

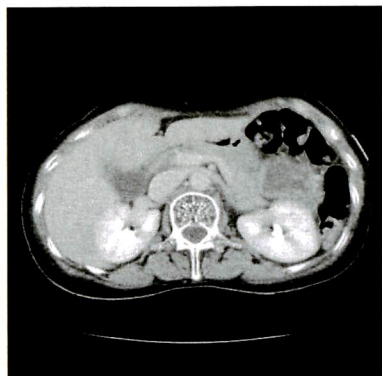
- a ④→①→③→②
- b ④→③→②→①
- c ④→②→①→③
- d ③→②→①→④
- e ③→①→②→④



①



②



③



④

- 19 業務上疾病について正しいのはどれか。

- a 産業医が認定する。
- b 最も多いのはじん肺である。
- c 労働者災害補償の保険料は事業者が負担する。
- d 安全衛生対策は労働基準法に規定されている。
- e 休業4日以上の業務上疾病は年間1万人以上発生している。

- 20 心肺蘇生のガイドラインについて正しいのはどれか。

- a 人工呼吸は1回に2秒かけて行う。
- b 気道確保は下顎挙上法が基本である。
- c 人工呼吸は胸がしっかり上がるように行う。
- d 胸骨圧迫は、柔らかいマットの上で行うほうが望ましい。
- e 胸骨圧迫は1分あたり100回のテンポで、約4～5cmの深さまで押す。

- 21 待機的脊椎手術で術前に投与中止すべき薬剤はどれか。

- a 利尿薬
- b ジギタリス
- c カルシウム拮抗薬
- d 血小板凝集抑制薬
- e 副腎皮質ステロイド薬

- 22 下口唇の処置に対して最も有効な神経ブロックはどれか。

- a 眼窩上神経ブロック
- b 眼窩下神経ブロック
- c オトガイ神経ブロック
- d 大後頭神経ブロック
- e 星状神経節ブロック

- 23 好酸球の増加がみられるのはどれか。

- a 結核
- b 回虫症
- c 粘液水腫
- d 細菌性肺炎
- e 伝染性単核球症

24 正しいのはどれか。

- a 母子健康手帳の配布は母子保健法にて規定される。
- b 低出生体重児の届出は地域保健法に規定されている。
- c 市町村に母体および乳幼児の健診を行う義務はない。
- d 母体保護法による人工妊娠中絶は在胎24週未満に適用される。
- e 虐待を疑われる小児を診察した場合、直ちに保健所に通報する。

25 正しいのはどれか。

- a 地方衛生研究所は市町村が設置する。
- b 保健所の所長は原則として医師が務める。
- c 市町村保健センターには医師を配置しなければならない。
- d 保健所は福祉六法に定める援護の措置を司る。
- e 児童相談所は12歳未満の児童に関する様々な相談に応じ、指導などを行う。

26 第1子の染色体の核型を示す。次子の妊娠時に両親に伝える内容で正しいのはどれか。

- a 「母体血清マーカー検査で確定診断が可能です」
- b 「羊水検査が原因で流産する可能性は約0.3%です」
- c 「次の妊娠で男児ならば同じ病気になる確率は50%です」
- d 「血族婚の場合、同じ病気になる可能性が高くなります」
- e 「次の妊娠で同じ病気になる確率を知るには、両親の染色体検査が必要です」



第1子の染色体の核型

27 組合せで誤っているのはどれか。

- a 児童相談所———一時保護
- b 福祉事務所———生活保護
- c 保健所———身体障害者手帳の交付
- d 社会福祉法人———特別養護老人ホーム
- e 民生委員———社会福祉事業への協力

28 常染色体優性遺伝性の疾患はどれか。

- a 血友病B
- b Becker型筋ジストロフィー
- c Hurler病
- d 筋強直性ジストロフィー
- e 先天性副腎皮質過形成症

29 血圧、皮膚温、心拍出量は低下し、末梢血管抵抗は上昇している。

このショックの原因はどれか。

- a 心原性
- b 出血性
- c 敗血症性
- d アナフィラキシー
- e 神経原性

30 疾患と制限する項目の組み合わせで誤っているのはどれか。

- a 痛 風———アルコール
- b 脂肪肝———総エネルギー
- c 高血圧症———塩 分
- d ウイルソン病———マグネシウム
- e ネフローゼ症候群———蛋白質

31 組合せで誤っているのはどれか。

- a 健康教育———行動変容
- b 健康増進法———受動喫煙の防止
- c 健康日本21———薬物乱用防止
- d オタワ憲章———ヘルスプロモーション
- e アルマ・アタ宣言———プライマリヘルスケア

32 エストロゲンの低下に関連しないのはどれか。

- a 動脈硬化
- b 高脂血症
- c 委縮性肺炎
- d 高血圧
- e 子宮腔部びらん

33 慢性閉塞性肺疾患の治療法として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 呼吸理学療法
- b 高流量酸素吸入
- c 持続的気道陽圧法 (CPAP)
- d 長時間作用型吸入抗コリン薬
- e エリスロマイシン少量長期投与

34 脊髄腔内投与ができる薬剤はどれか。

- a エトボシド
- b ビンクリスチン
- c アドリアマイシン
- d メントレキセート
- e シクロフォスファミド

35 正しいのはどれか。

- a 感染症法は学校感染症について定めている。
- b 薬事法は麻薬の取り扱いについて定めている。
- c 母子保健法は就学時の健康診断について定めている。
- d 高齢者医療確保法は受動喫煙の防止について定めている。
- e 労働基準法は業務上の疾病に関し、使用者の補償義務を定めている。

36 乳汁分泌について正しいのはどれか。

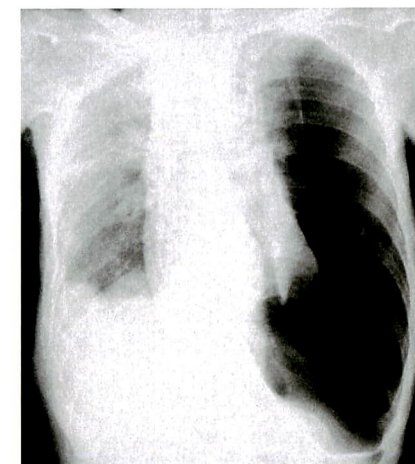
- a エストロゲンは乳腺の発育を抑制する。
- b 授乳によりオキシトシンの分泌は抑制される。
- c 授乳によりプロラクチンの分泌は促進される。
- d オキシトシンはプロラクチンの分泌を抑制する。
- e 成乳は初乳に比べて免疫グロブリンの含有量が多い。

37 劣位半球の障害の時に出現するのはどれか。2つ選べ。

- a 観念性失行
- b 着衣失行
- c 構成失行
- d 手指失認
- e 地誌失認

38 自宅にて突然の呼吸困難を生じ救急外来へ搬送された中年男性の胸部エックス線写真を示す。
この病態で認められない診察所見はどれか。

- a 頻 脈
- b 血圧低下
- c チアノーゼ
- d 頸静脈怒張
- e フレイルチェスト (動揺胸郭)



胸部エックス線写真

39 肝機能を評価する検査はどれか。

- a 尿素呼気試験
- b リンパ球幼若化試験
- c 経口グルコース負荷試験
- d クレアチニンクリアランス
- e インドシアニングリーン (ICG) 試験

40 学童の発育指数でもっとも有用なのはどれか。

- a Kaup指数
- b Rohrer指数
- c 肥満度
- d BMI
- e プローカ指数

- 41 38歳の初産婦。妊娠37週2日に羊水流出感を主訴に来院した。

現病歴：人工授精による妊娠で、妊娠7週から当院で健診を受けていた。児の成長は週数相当である。36週に行った血液検査では、D-ダイマーが $3.6 \mu\text{g/ml}$ （非妊時正常値 $<1.0 \mu\text{g/ml}$ ）、子宮頸管培養では、B群レンサ球菌を認めていた。

既往歴・生活歴・家族歴：特記すべきことはない。薬物アレルギー歴もない。

現 症：身長 157 cm、体重 72 kg、体温 37.1°C 、脈拍 74/分、整。血圧 138/79 mmHg。子宮底長 32cm、腹囲 95cm。7～9分間欠で子宮収縮を認める。

検査所見：尿所見：蛋白（-）、糖1+、血液所見：赤血球 $300\text{万}/\mu\text{l}$ 、Hb 9.6 g/dl 、Ht 28%、白血球 $9,000/\mu\text{l}$ 、血小板 $19\text{万}/\mu\text{l}$ 。

胎児心拍数陣痛図所見：一過性頻脈を認め、一過性徐脈はない。胎児心拍数基線は150bpmであり、基線細変動はあった。子宮収縮は7～9分に1回。

内診所見：先進は頭部で子宮口は2cm開大していた。展退度は40%、SPは-2cmであった。子宮口から水様物の流出は持続し、BTB試験紙で青変した。

まず投与すべき薬物はどれか。

- a インスリン
- b オキシトシン
- c アンピシリン
- d ベタメタゾン
- e インドメタシン

- 42 68歳の女性。自宅クローゼットで首を吊っているのを長男が発見した。立位で足は浮いている状態であった。直ちにロープを切り仰向けに寝かせ、救急隊を要請したが搬送されなかった。発見から8時間後に行われた検案により死後24時間と推定された。

死斑の発現部位はどれか。2つ選べ。

- a 背 部
- b 手 部
- c 顔面部
- d 左右上腕後面
- e 左右下肢全面

- 43 8歳の男児。1週間前より発熱、感冒様症状があり、4日前より口腔内に発疹を認める。その後顔面、体幹、四肢へと紅斑が出現し拡大したため来院した。

口腔粘膜の臨床写真を示す。

考えられる疾患はどれか。

- a 風 疹
- b 麻 疹
- c 水 痘
- d 伝染性紅斑
- e 突発性発疹



口腔粘膜の写真

- 44 30歳の男性。言動の変化を心配した妻に伴われて来院した。半月前から「外にでると監視されている」と言って部屋にこもり仕事に行かず、食事もありとらない。精神保健指定医が診察し入院が必要であると診断されたが、本人は入院を拒んでいる。妻は入院の必要性をよく理解している。

対応として適切なのはどれか。

- a 応急入院
- b 措置入院
- c 医療保護入院
- d 任意入院
- e 外来治療

- 45 65歳の男性。45年間の喫煙歴がある。1か月前から嗔声が続き、受診した。のどの痛みはない。喉頭ファイバー検査にて、右の声門部に限局して発赤を伴った隆起を認め、生検にて、扁平上皮癌の診断が得られた。

治療法はどれか。

- a 喉頭全摘術
- b 喉頭全摘術および右頸部リンパ節郭清
- c 喉頭全摘術および両側頸部リンパ節郭清
- d 放射線単独療法
- e 局所動注化学療法

46 63歳の男性。家族歴および既往歴には特記すべきものはない。最近は“すぐに疲れてしまう”、“気分が滅入ってしまう”、“死にたい”など家族にこぼすことが多くなった。自室で、倒れているのを発見され救急要請された。救急隊現着時には嘔吐および便失禁を認めた。吐物はニンニク臭を放っていた。また、ラベルのはがれた空瓶が近くに転がっていた。初診時、意識はJCS 100、瞳孔は縮瞳していた。呼吸数 20/分。脈拍 38/分、整。血圧 120/80 mmHg。体温 35.4℃であった。発汗および流涎が著明であった。呼吸状態が悪く、気道分泌物が著明で、聴診では全肺野に喘鳴が認められ、非再呼吸式リザーバー付フェイスマスクで酸素10 l/分投与してもSpO₂は90%前後であった。

診断上重要な血液生化学検査所見はどれか。

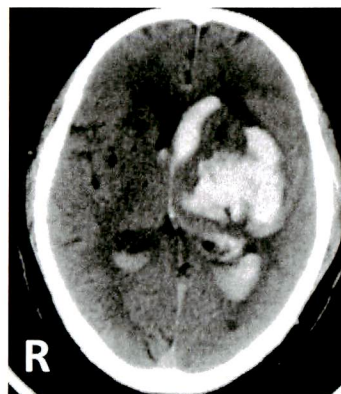
- a CK
- b AST
- c LDH
- d AMY
- e ChE

47 65歳の男性。10年前より高血圧、高脂血症を指摘され、治療を受けていた。夕食後、入浴したがなかなか出てこないため家人が様子を見たところ、洗い場で倒れてぐったりしていた。すぐに救急車で病院に搬送された。

来院時の意識レベルはJCS II-30、血圧 180/88 mmHg。頭部CTスキャン画像を示す。

この疾患についての説明で誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 脳室内出血がある。
- b 高血圧性脳内出血混合型である。
- c 左半身麻痺が後遺症として残存する。
- d 急性期リハビリは再出血防止のため行わない。
- e FIMまたはBarthel indexは回復期ADLの評価に有用である。



頭部CTスキャン画像

48 32歳の女性。1 か月前に39℃台の発熱が出現し、その後立ちくらみ、動悸、息切れを感じるようになり来院した。血液所見：白血球 6,140、赤血球 270万、Hb 9.1 g/dl、Ht 26.1%、血小板 21.2万。血液生化学所見：総ビリルビン 1.46 mg/ml、AST 71 IU/l、ALT 44 IU/l、LDH 812 IU/l（基準176～353）。免疫学所見：CH50 13.0 U/ml（基準 25～54）、C3 45 mg/dl（基準 69～128）、C4 11 mg/dl（基準 14～36）、直接クームス陽性、間接クームス陽性。

この患者にみられる検査所見はどれか。

- a 直接ビリルビン優位の上昇
- b 血清タンパク α 2分画低下
- c LDH5型優位の上昇
- d 網状赤血球数減少
- e 血清カリウム低値

49 88歳の女性。在宅療養、寝たきり。往診時、仙骨部に褥瘡を発見した。感染の徴候や骨の露出は認めず、創面は良好な肉芽に覆われていた。

褥瘡管理として適切でないのはどれか。

- a 栄養管理
- b 体位指示
- c 入浴の禁止
- d 創の局所処置
- e 新たな褥瘡予防

50 80歳の女性。かかりつけ医への定期受診時に、家族が患者について1年前から物忘れが目立ち、2か月前から夜間の徘徊をするなどの異常行動を訴えた。食事や排泄などの日常生活は自立しているが、60歳の長女が一人で介護をしている。長女は介護生活に疲れ果てたと訴え、焦燥感をつのらせている。

かかりつけ医の対応として適切なのはどれか。

- a 経過を観察する。
- b 患者を措置入院させる。
- c 長女に抗うつ薬を処方する。
- d 老人短期入所施設を紹介する。
- e 長女に仕事を辞めて介護するように説得する。

51 34歳の1回経産婦。これまでに健診で異常を指摘されたことはなかった。妊娠41週1日に子宮収縮と破水感を訴え受診した。身長 158 cm、体重 60 kg（非妊時 52 kg）、血圧 110/70 mmHg、子宮底長 33cm。内診所見は先進部が児頭で下降度はSP-1、子宮口は5cm開大、展退度は50%であり羊水流出を認め、子宮収縮を8分間隔で認めた。

この妊婦の状態として正しいのはどれか。

- a 過期産である。
- b 適時破水である。
- c 子宮口全開大である。
- d 陣痛発来をしている。
- e 児頭は骨盤内に陥入している。

52 生後3日の新生児。在胎40週、2,900g、Apgar スコア 9点（1分）で出生した。哺乳は良好で、排便、排尿も認められている。

この児にあてはまらない所見はどれか。

- a 心拍数 120 /分
- b 呼吸数 43 /分
- c 体温度が 37.3 ℃
- d 授乳間隔が 8 時間
- e 排便回数が 1 日 4 回

53 40歳の男性。建築作業中に錆びた鉄板で左前腕を3cm程度切り受傷した。翌日になり受傷部位を中心に疼痛が強くなり来院した。受傷から約12時間経過し、創周囲は強く腫脹し哆開している。

創部に行う初期治療として適切でないのはどれか。

- a 消毒
- b 洗浄
- c 縫合閉鎖
- d ブラッシング
- e 挫滅組織切除

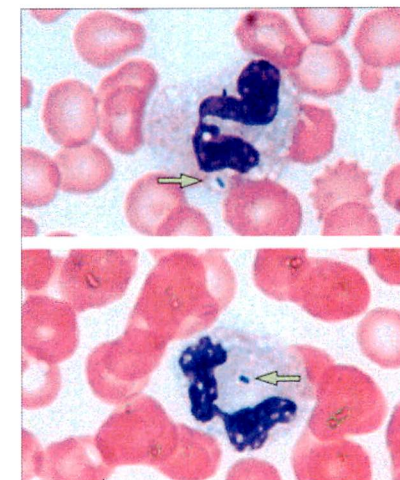
54 43歳の女性。2日前の朝から、咽頭痛あり。家事を行っていた午前中に悪寒、戦慄を伴って39.5℃の発熱あり。同日、近医を受診し、血液検査で白血球が 18,400 / μ l で紹介受診となった。

既往歴で3年前に外傷性脾損傷で脾臓を摘出した。来院時、意識清明。身長 162 cm、体重 55.3 kg。体温 38.7 ℃。脈拍 115/分、整。血圧 110/65 mmHg。表在リンパ節触知せず。心雑音なし。呼吸音に異常なし。腹部は平坦で圧痛を認めない。下肢浮腫なし。

検査では、尿蛋白1+、糖（-）、潜血（-）、沈渣正常。赤血球 398 万。Hb 13.2 g/dl、Ht 40 %、白血球 13,500。血小板 14 万。血液生化学所見：総蛋白 7.5 g/dl、アルブミン 4.0 g/dl、尿素窒素 22 mg/dl、クレアチニン 0.9 mg/dl、総ビリルビン 1.0 mg/dl、AST 30 IU/l、ALT 34 IU/l、CRP 15.5 mg/dl、血液塗抹標本を示す。胸部エックス線写真に異常を認めない。

正しいのはどれか。

- a 熱型観察を優先する。
- b ブドウ球菌感染である。
- c 海外渡航歴が重要である。
- d 本症には予防接種が有用である。
- e 刺し口のある皮疹が診断に有用である。



血液塗抹標本
矢印のように2つ連なった球菌を認める

55 48歳の女性。4年前に四肢の脱力発作と口腔の乾燥感が出現した。数日前から両下肢の脱力を自覚し来院した。脈拍 90/分、整。血圧 98/60 mmHg、心音、呼吸音に異常なし。尿所見：蛋白（－）、潜血（－）。動脈血ガス分析（自発呼吸、room air）：pH 7.28、 PaO_2 96 Torr、 PaCO_2 28 Torr、 HCO_3^- 13 mEq/l。血液所見：Hb 13 g/dl、白血球 7,000、血小板 28 万。血液生化学所見：尿素窒素 17 mg/dl、クレアチニン 0.7 mg/dl、Na 138 mEq/l、K 2.2 mEq/l、Cl 116 mEq/l、血糖 123 mg/dl。

原因はどれか。

- a 糖尿病性腎症
- b Bartter症候群
- c Sjögren症候群
- d 周期性四肢麻痺
- e 原発性アルドステロン症

56 75歳の男性。8年前より労作時呼吸困難を自覚していた。半年前から下腿浮腫を時折認めており、近頃は労作時呼吸困難のため休み休みでなければ50m以上歩行できない状態であった。3日前から発熱、喀痰の増量および呼吸困難の増悪を認めたため、受診した。

喫煙歴は 20本/日を55年間。意識清明、体温 38.5℃、脈拍 110/分、血圧 150/80 mmHg、聴診上全肺野にwheezesを聴取、両下腿の浮腫とばち指を認めた。動脈血液ガス分析では、室内気下で pH 7.33、 PaCO_2 69 Torr、 PaO_2 53 Torr、 HCO_3^- 34 mEq/lであった。

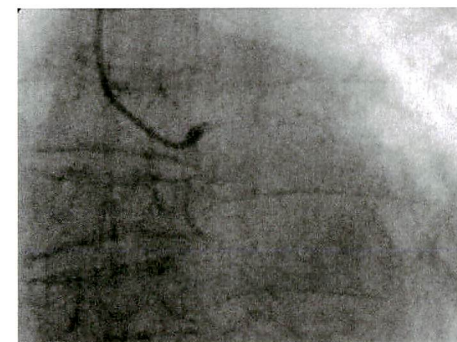
ただちに行うのはどれか。

- a 気管支拡張薬の投与を開始する。
- b 鼻カニューラで酸素を 0.5 l/分で投与を開始する。
- c リザーバーバッグ付きのフェイスマスクで酸素を 10 l/分で投与を開始する。
- d 非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）を開始する。
- e 侵襲的陽圧換気療法（IPPV）を開始する。

57 72歳の男性。50歳代より高血圧の内服加療をしている。2週間前から歩行時に胸部圧迫感を自覚するようになった。一昨日より安静時にも同様の症状が出現していたが放置していた。本日起床後に突然胸部圧迫感が出現し持続するため救急車を要請した。来院時脈拍 94 回/分、整。血圧 76/40 mmHg。検査所見 血液所見：赤血球 380 万、Hb 12.7 g/dl、Ht 31 %、白血球 12,000、血小板 25 万。血清生化学所見：血糖 134 mg/dl、総蛋白 6.5 g/dl、尿素窒素 30 mg/dl、クレアチニン 0.9 mg/dl、総コレステロール 230 mg/dl、GOT 158 単位（正常 40 以下）、GPT 47 単位（正常 35 以下）、CK 1,836 単位（正常 10～40）、Na 136 mEq/l、K 3.8 mEq/l、Cl 98 mEq/l。直ちに行った冠動脈造影所見（左冠動脈）を示す。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 利尿薬の投与
- b ジギタリスの投与
- c カテコールアミンの投与
- d 大動脈内バルーンパンピングの使用
- e ショックが改善したのちに再灌流療法を行う。



冠動脈造影所見（左冠動脈）

58 小児の腹部診察で誤っているのを選び。

- a 肥厚性幽門狭窄症では、臍と左季肋部の間で腹直筋の左で、オリーブ大の腫瘍を認める。
- b 腸重積症では、上腹部から右側腹部にかけて、ソーセージ様の腫瘍を認める。
- c 腹膜炎ではrebound tendernessを認める。
- d 腎盂腎炎では肋骨－椎骨角で段打痛を認める。
- e 糖尿病性ケトアシドーシスの嘔吐は嘔吐中枢が直接刺激されるために出現する。

59 23歳の男性。2か月前から腹痛と下痢を認めるも放置していた。1週間前より腹痛増強し、食欲も低下、37.8℃の発熱を認めたため来院した。

既往歴：21歳時に肛門周囲膿瘍。

現 症：身長 172 cm、体重 58 kg。体温 37.6℃、脈拍 92 /分、整。血圧 108/66 mmHg。腹部は平坦、軟。臍周囲に圧痛を認める。

検査所見：血液所見：白血球 12,000、赤血球 392 万、Hb 10.1 g/dl、Ht 30 %、血小板 48 万。血液生化学所見：総蛋白 5.6 g/dl、アルブミン 2.6 g/dl、総コレステロール 112 mg/dl、トリグリセリド 67 mg/dl、CRP 12.3 mg/dl。

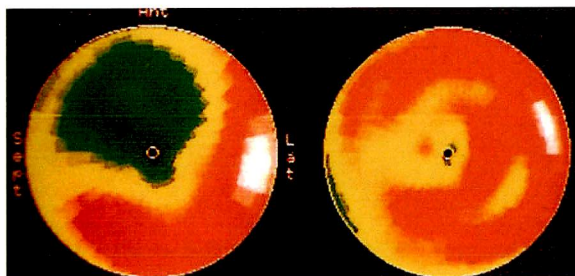
診断法として適切でないのはどれか。

- a 腹部CT検査
- b 小腸造影検査
- c 大腸内視鏡検査
- d 上部消化管内視鏡検査
- e ポジトロンエミッション断層撮影 (FDG-PET)

60 55歳の男性。労作時の胸痛を主訴に来院した。脂質異常症で近医通院中。外来で施行した運動負荷²⁰¹Tl心筋シンチグラム（左：負荷時、右：安静時）を示す。

責任病変として考えられるのはどれか。

- a 右冠動脈
- b 左冠動脈主幹部
- c 左前下行枝近位部
- d 第1対角枝
- e 回旋枝



運動負荷²⁰¹Tl心筋シンチグラム

61 78歳の男性。高熱を主訴に来院した。3日前から鼻汁と咽頭痛とが出現し、今朝から悪寒・戦慄と39℃台の発熱、頭痛、全身倦怠感および筋肉痛を訴え、食事が摂取できなくなった。介護老人福祉施設に入所中であり、同様の症状を呈するものが周囲にいる。意識は清明。疲労顔貌を呈している。脈拍 92/分、整。血圧 128/84 mmHg。呼吸音に異常はない。鼻腔粘膜病原微生物抗原検査を行った。

正しいのはどれか。

- a I 類感染症として届け出る。
- b 直ちに患者にワクチン接種を行う。
- c ノイラミニダーゼ阻害薬の適応がある。
- d ニューキノロン系抗菌薬が有効である。
- e 空気感染による他人への感染に注意するように指導する。

62 70歳の男性。突然の胸痛と続発する呼吸苦を主訴に救急車にて来院。心電図上、広範前壁の急性心筋梗塞所見と診断された。来院時血圧 66/40 mmHg、脈拍は微弱で 120拍/分。心エコー図では、左室前側壁の壁運動が著しく低下しており、左室駆出分画は 35%であった。

本症例で想定される身体所見として矛盾しないのはどれか。

- a 尿量が時間 100ml以上になる。
- b 四肢は温かく乾燥している。
- c 意識混濁がみられる。
- d 膿性痰の咯出がみられる。
- e 広範囲の肺野で呼吸音が減弱する。

次の文を読み、63～65の問に答えよ。

症例：68歳の男性。数日前に発熱と下痢を認め近医を受診した。急性感染性胃腸炎と診断されたが、

この際の腹部所見にて腹部拍動性腫瘍を指摘され、紹介受診となった。

既往歴) 高血圧を指摘されるも放置

生活歴) 喫煙歴 1日20本×40年間。飲酒歴はない。

現症) 意識清明。身長 163 cm、体重 65 kg。体温 36.4℃。脈拍 72回/分、整。血圧 165/100 mmHg。

心音と呼吸音に異常を認めない。腹部に約4cmの拍動性の腫瘍を触知するも圧痛は認めない。

検査所見) 血液所見：赤血球 450万、Hb 15.2 g/dl、Ht 42%、白血球 6,500、血小板 22万。血液生化学所見：血糖 226 mg/dl、HbA1c 7.4%、総蛋白 7.3 g/dl、アルブミン 3.8 g/dl、尿素窒素 15 mg/dl、クレアチニン 0.8 mg/dl、総コレステロール 290 mg/dl、トリグリセリド 364 mg/dl、Na 144 mEq/l、K 3.8 mEq/l、Cl 108 mEq/l。腹部造影CTの所見を示す。



腹部造影CTの所見

63 この疾患について、誤っているのはどれか。

- a 腎動脈下の病変が最も多い。
- b 成因の大部分が粥状動脈硬化変性である。
- c 紡錘状のものは嚢状のものに比べて破裂のリスクが高い。
- d 罹患率は男性が高い。
- e 破裂した場合の救命率は10-30%くらいである。

64 この疾患の手術治療について、誤っているのはどれか。

- a 手術法にステントグラフト内挿法がある。
- b 傍腎動脈型はステントグラフト内挿法の良い適応である。
- c 瘤径 50mm以上は手術適応である。
- d 待機手術の場合の手術死亡率は1%前後である。
- e 瘤径 40mm以上のもので、半年で5mm以上の瘤径の拡大は手術適応である。

65 この症例はしばらく外来で経過観察の方針となった。管理指導する上で最も重要なことはどれか。

- a 禁煙指導
- b 高脂血症の是正
- c 血圧管理
- d 血糖管理
- e ダイエット指導

次の文を読み、66～68の問いに答えよ。

26歳の女性。意識障害を主訴に搬送された。

現病歴：1年前に健診にて高血糖を指摘されていたが、医療機関の受診はしていなかった。1ヶ月前より、口渴、易疲労感を自覚し、清涼飲料水を多量に摂取していた。1週間より上気道症状、38℃台の発熱が出現し、全身倦怠感の増悪と、食欲低下、嘔気も自覚していた。今朝、起床せず、ベッドにて意識がもうろうとしている所を家族に発見された。

既往歴：特記すべき事なし

家族歴：特記すべき事無し

現 症：身長 157 cm、体重 43.5 kg。体温 37.8℃。呼吸数 30/分。脈拍 106/分。血圧 88/42 mmHg。意識はJCSⅡ-20、咽頭に発赤を認め、口腔内、舌は乾燥しているが、胸腹部に異常所見は認めない。

検査所見：赤血球 487 万、Hb 16.3 g/dl、Ht 47.5 %、白血球 11,300。尿素窒素 28 mg/dl、クレアチニン 1.9 mg/dl、Na 149 mEq/l、K 5.5 mEq/l、Cl 112 mEq/l、CRP 1.9 mg/dl、血糖 632 mg/dl、HbA1c 10.5 %、動脈血液ガス pH 7.10、PaO₂ 90.2 Torr、PaCO₂ 28.3 Torr、HCO₃ 11 mEq/l

尿タンパク（-）、尿糖4+、尿ケトン体3+。

66 本症例の病態でみられるのはどれか。2つ選べ。

- a 高張性脱水
- b 心原性ショック
- c 代謝性アシドーシス
- d 糖尿病性腎症による腎不全
- e 非ケトン性高浸透圧性昏睡

67 初期治療で投与するのはどれか。

- a 抗菌薬
- b 生理食塩水
- c 5%ブドウ糖液
- d 新鮮凍結血漿
- e カテコラミン製剤

68 原疾患の診断に有用な検査はどれか。

- a 抗核抗体
- b 抗GAD抗体
- c 抗利尿ホルモン
- d 副腎皮質刺激ホルモン
- e 抗サイログロブリン抗体

次の文を読み、69～71の問いに答えよ。

52歳の男性、左利き。全身けいれんと意識障害のため搬入された。

現病歴：6日前から39℃の発熱が出現。2日前から話のつじつまが合わなくなり近医を受診。感冒薬を処方された。本日午後5時から左半身から始まる全身けいれんが出現し、意識が低下した。救急車で搬送途中、けいれん発作が出現した。

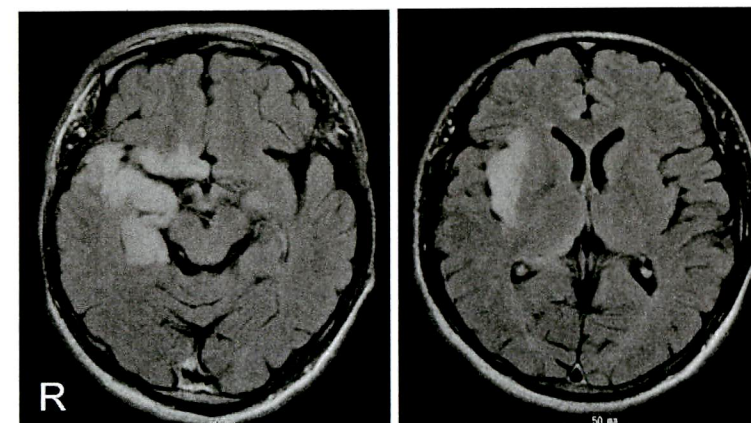
既往歴、生活歴、家族歴：特記すべきことはない。

現症（午後6時）：意識レベル：閉眼しており痛み刺激でも開眼しないが、痛み刺激に対して右上肢には払いのけるなどの動作がみられる。瞳孔は3mm、左右同大、対光反射迅速。右への共同偏視を認めた。四肢筋トーンスは低下しており、上肢落下試験では左上肢は顔面に落下する。深部腱反射は異常なし。項部硬直、Kerning徴候陰性。体温 37.1℃。脈拍 90/分。血圧 140/90 mmHg。

検査所見：尿所見：蛋白（-）、糖（-）。血液所見：赤血球 409 万、Hb 12.9 g/dl、Ht 36.5 %、白血球 9,000、血小板 15万、血液生化学：血糖 138 mg/dl、総蛋白 7.3 g/dl、尿素窒素 11 mg/dl、クレアチニン 0.5 mg/dl、総コレステロール 200 mg/dl、トリグリセリド 120 mg/dl、総ビリルビン 0.3 mg/dl、AST 22 IU/l、ALT 16 IU/l、LD 187 IU/l（基準：119-229）、CK 183 IL/l（基準：60-247）

髄液検査：細胞数120/μl、蛋白 159 mg/dl、糖 90 mg/dl。

頭部単純MRIを示す。



頭部単純MRI

- 69 意識レベルはJapan Coma Scaleでどれか。
- a II-10
 - b II-20
 - c II-30
 - d III-100
 - e III-200
- 70 入院時みられた左片麻痺と意識障害は改善し、入院翌日には両上肢拳上保持可能となった。
左片麻痺の原因はどれか。
- a 脳梗塞
 - b 血管攣縮
 - c Todd麻痺
 - d 半側身体失認
 - e 一過性脳虚血発作
- 71 適切な治療法はどれか。2つ選べ。
- a t-PAの静注
 - b ジアゼパムの筋注
 - c ヘパリンの持続静注
 - d フェニトインの点滴静注
 - e アシクロビルの点滴静注